

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)		-	-	-
		商店街（事務局長）	販売量の動き	・4月頃まで宝飾、アパレル、雑貨等の高額品の動きは、前年並みであったが、5月以降緩やかな右肩上がりの傾向を維持している。既に今秋の消費税引上げへの駆け込み消費が始まっている。ただし、この動きは今のところ高額品にとどまる。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・今月は目的買いの客が、ふだんよりも多かった。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・来客数は前年並みであるが、客単価が5ポイント増加した。物価の上昇だけではなく購入量が増加している。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・10月に消費税の引上げを控え、単価が高い商品への客の購買意欲はある。景気は多少良いが、消費税の引上げまでの駆け込みもあるのだろう。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・全体的に販売数量が増えている。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・7月に入ってから、5～6月より売上が良くなってきた。当温泉地は今、本館の改修や各旅館の建て替え等、大きな変化の時期を迎えている。そのため、全体としては、外国人も増えており、商店街にもぎわっているのに悲観することはないが、当面は少し大変である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・7月は梅雨明けが大変遅く雨が多かったが、毎週の土曜夜市はたくさんの人でにぎわった。観光客も含めて、来街客が土日中心に多かった。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・販売量は余り変わりがないが、個人店の開店祝い商品1つとっても格差が出てきている。以前は平均的に新装開店する各店に向けて売れていたのが、近頃はたくさんのお祝い品が届いて繁盛している店もあれば、本当に今日開店なのかと思うほど寂しい店もある。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・天候不良と参議院選挙があり、繁華街の料飲店では人出が少なかったため、売上が伸びなかった。お中元贈答品の販売が量販店との価格差で今年は随分減少した。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・前年の平成30年7月豪雨の被害による影響もあり、今年は宝石や特選品は前年に比べて非常に好調に推移しているようにみえる。しかし、実体景気が良いかどうかは判断できない。
		百貨店（営業管理担当）	お客様の様子	・クリアランスセールを実施してもファッション関連への反応は薄く盛り上がりには欠ける。2週目以降はクリアランスセールの効果も弱くなり来客、買上共に減少した。高額品の動きは引き続き好調であるが、主軸である衣料品の苦戦は変わらない。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・前年の値上げから1年が経過し、来客数と客単価との関係は落ち着いてきたが、商品を買回る客の行動は競合店との取り合いとなり来客数が減少する傾向にある。
		衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・既存店舗の売上は前年に対し大きくマイナスとなっている。天候の影響もあり、来客数が大きく減少している。また、バーゲンセール比率が高まり、定価販売の比率が落ちていることも影響している。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・客から明るい話が出てこない。客単価や来客数が微妙に減っている。
		都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・単価が上昇してこないことが致命的である。「デフレは終わった」という評価もあるが、この業界はデフレ状態が続いている。前年は平成30年7月豪雨で高速道路が潰れたりしていたので、その分、今年の7月の宿泊客は若干増えている。それが今後どこまで続くか気になるところである。
	タクシー運転手	お客様の様子	・売上、実車人数、回数、どれも横ばいで変わっていない。状況は余り良くない。	
	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・今年もボーナス商戦に合わせて新製品を発売したが、買換える客は大きく減っており、前年同月に比べて75%程度の販売に止まっている。	

	美容室（経営者）	お客様の様子	・ボーナス月も終わり客が動かない。
	設計事務所（所長）	単価の動き	・特に変わったことはない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・時代はますますネット社会となり、今後もA Iや5 Gと加速化し、実在店舗の状況は厳しい。米国では既に郊外ショッピングセンターや大型店のとう汰が急速に進んでいる。10年後を待たず日本も第2、第3の流通革命が起きるだろう。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・消費税の引上げを前にして客の消費が鈍化している。また最近では日韓関係の悪化の影響で韓国からの観光客が少し減少しており、観光客の買物も単価の安い商品を買う傾向にある。
	百貨店（販売促進）	単価の動き	・前半は梅雨の影響で夏物衣料、雑貨が苦戦した。後半は猛暑となり夏物商材に動きが出ているが、全体的に来客数が減少し後半は更に苦戦した。
	スーパー（統括担当）	競争相手の様子	・競争企業がチラシをたくさん増やしたり、大幅に値下げしたりしている。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・7月は長梅雨による雨と気温に大きく左右される結果となった。ごく最近是非常に暑い日が続いているが、この猛暑で一気に取り返せるような状態ではなく、非常に厳しい月だった。
	家電量販店（副店長）	それ以外	・前月までは若干上向き傾向であったが、7月の長雨や冷夏の影響で夏物商材が販売不振であったことが大きい。
	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・消費税の引上げ前に間に合う車が減ってきたので、販売量が落ちてきた。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月受注をしても納期は10月以降となる車種も増えてきたため、注文書の作成時期を消費税の引上げ後にしようとする客もいる。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・参議院選挙や、長い梅雨、各地の災害などの影響で飲みに出るのを自粛している人が多かった。
	旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・夏の受注ピークを迎えているが大きな販売に結び付いていない。特に国内旅行の動きが鈍い。
	タクシー運転手	来客数の動き	・7月は暑くてお遍路さんの仕事もほぼない。また、暑くなるとタクシーに乗ってもらえるが、今年は梅雨が長く暑くなるのが遅く、涼しい日が多かったので、客が少なかった。夜も人がそれほど出ていないので、余り良くなかった。
	通信会社（技術）	販売量の動き	・当社サービスにおけるキャンペーン施策時に加入した客の解約件数が増加傾向にある。
	競輪競馬（マネージャー）	来客数の動き	・来場者は減少傾向にあり、場内の利用状況や人混みの状況から少なくなったことが感じ取れる。実際に場外販売のみの際は売場の一部閉鎖等により営業経費の削減対策を講じている。
	× 一般小売店〔乾物〕（店員）	販売量の動き	・売上がとにかく悪い。退店、閉店をよく見掛ける。
	× スーパー（店長）	販売量の動き	・通常でも景気が良くないと感じていたところに、この夏の梅雨が長引いたことで更に夏物の売行きが悪くなり、景気が悪化している。
	× スーパー（財務担当）	来客数の動き	・梅雨の長期化と低い気温で、夏物を中心に販売が極めて苦戦した。
	× コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数の減少に歯止めが掛からない。
	× コンビニ（総務）	来客数の動き	・前年の梅雨明けが早かったこともあるが、来客数の前年割れがより拡大している。
企業 動向 関連 (四国)	-	-	-
	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・7月の受注は増大している。一部ラインでは生産のキャパシティをオーバーしている。消費税の引上げの影響が出ている。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・医療関係で従来、取引をしていた会社から少し注文が入りだしたので、少しは良くなっていく。

	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・6月後半、7月初旬と受注が旺盛であったが、中旬からは天候不順だったため受注が後退している。特に東京都内、都心部や全国の観光地ではこの時期、夏物タオルの商品が非常に人気であるが、全体的に人出が落ち込み、一部小売店では売上が大幅にダウンしているところもある。
	鉄鋼業（総務部長）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格や販売価格に大きな変動はない。
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・海外の一部地域を除き、需要は引き続き回復基調であり、大きな変化はない。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギーの発電所は、固定価格買取制度の買取り価格が下落したことで、大変厳しい状況にある。今までの営業努力で何とか持ちこたえているが、大変な苦境に差し掛かっている。
	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・製品の出荷量は3か月前と比べて大きな変動がなく推移している。また、製品単価も3か月前から変更していない。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共、民間工事共に受注が低調である。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共事業の発注量は例年どおりであるが、業者間の競争性が高くなり、地元企業の受注が思うようには進んでいない。前年度の災害関連業務による過重勤務の是正、超勤時間の短縮に向けた取組等もあって、売上や利益の向上を望むことが難しい。そのため、年間を通しての好況感の到来は難しいかもしれない。
	輸送業（経営者）	取引先の様子	・原油価格の上昇が気になるが、おおむね好調である。
	金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先の試算表等は大きな変化がない。消費税の引上げ前の参議院選挙等を静観している様子である。
	公認会計士	取引先の様子	・今月の各法人の決算、あるいは試算表を前年比でみると、ほとんど伸びがない状態が続いている。
	農林水産業（職員）	取引先の様子	・青果物の販売は、4月にやや回復したが5月の連休明けから低迷し、大型野菜は産地廃棄が続くなど価格は低迷している。果物も6月からの曇雨天や低温からスイカの価格低迷など、厳しい状況が続いている。4月から7月中旬までの販売は近年の中で最悪の状況にあり、先行き不透明感が増している。
	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・梅雨が長く天候不順が続いた影響により低調な推移となっている。
	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・観測史上最も遅い梅雨入りとなった影響もあり、7月上旬から中旬は季節素材に対する消費者の動向が鈍く、例年に比べ取扱物量の大幅な減少を招いていた。しかし7月下旬には梅雨明けを迎え猛暑となったことから空調家電や飲料等の取扱物量も徐々に回復してきた。消費税の引上げ前の駆け込み需要による取扱物量の増加を期待していたが、予想に反し一般的に荷動きは鈍い。
	輸送業（経理）	取引先の様子	・輸出入や港湾移出入の数量については減少しつつあり、また国内輸送取扱量も10月に消費税の引上げがあるものの落ち着いている。
	x	*	*
雇用 関連	-	-	-
(四国)	人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・企業は女性の雇用環境改善を図ることで人材の確保を進めている。しかし、働き方改革の成果がある企業と、ない企業との格差が目立ち始めている。
	職業安定所（求人開発）	それ以外	・6月の有効求人倍率は1.46倍で、3か月前と比べて0.18ポイント減少しているが、例年、4～6月は前年度末よりも数値が減少する傾向にあり、前年同月よりは高い数値になっている。
	民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子	・最近、障害者支援施設を訪問する機会が多いが、施設ごとで、離職率が大きく変わっている。理由としては様々あるが、一番大きいのは、給与面、福利厚生面である。社会的意義の大きな仕事なので、国、県、市町村のバックアップが重要になってくる。支援員が長続きするような制度が必要である。

	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・内定率や内々定率が順調に推移している。前年の同時期と比較して、5%ほど上昇している。
	人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・派遣の受注数は前年より3割以上減少している。
	求人情報誌 (営業)	採用者数の動き	・どの業界でも人材不足が続いており、業績に影響が出ている企業も増えてきた。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	それ以外	・広告予算がどんどんと縮小されている。抑えているのだろう。
x	人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・米中の貿易摩擦問題が起きて、派遣の需要が急激に減ってきている。